

RRL型 摩擦評価装置のご紹介



高周波粘弾性株式会社

HFVE

機器開発に必要な4つの試験モードを網羅

すべり率測定ユニット (搬送負荷によるすべり率測定)

・すべり率測定モード

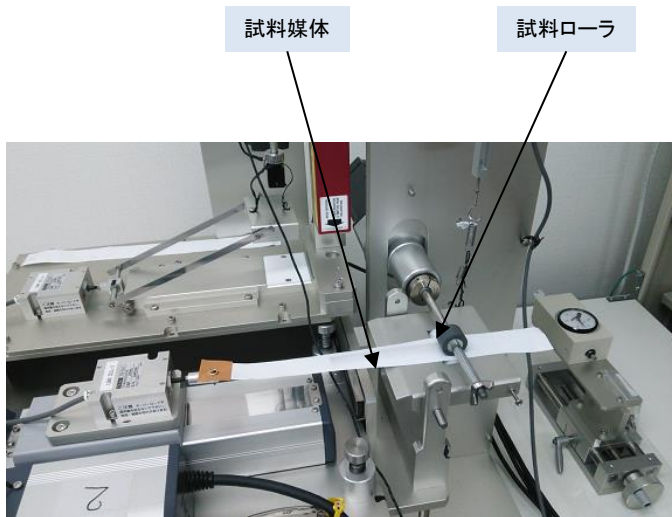
- ・搬送負荷相当の負荷力を自動設定してすべり率測定
- ・紙粉付着による搬送信頼性劣化を促進試験



測定結果の簡易表示



取説、入力指示をポップアップ



- ・ローラ回転摩擦測定モード
- ・ローラ固定摩擦測定モード
- ・摩耗試験モード

測定結果の簡易表示

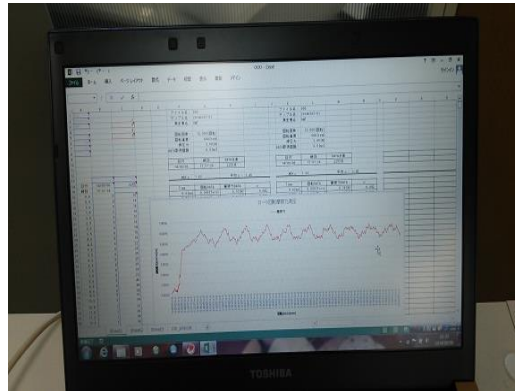


摩擦係数測定ユニット (すべり率100%での摩擦力測定)

データ処理

結果表示はPCのEXCELにUSBデータリンクして自動表示します。

- ・測定パラメタが一覧でき記録ミスがない。
- ・自動グラフ作成で報告書へのコピーが簡単！



RRL型摩擦評価装置の特徴

実機なしで実機相当の試験ができる！

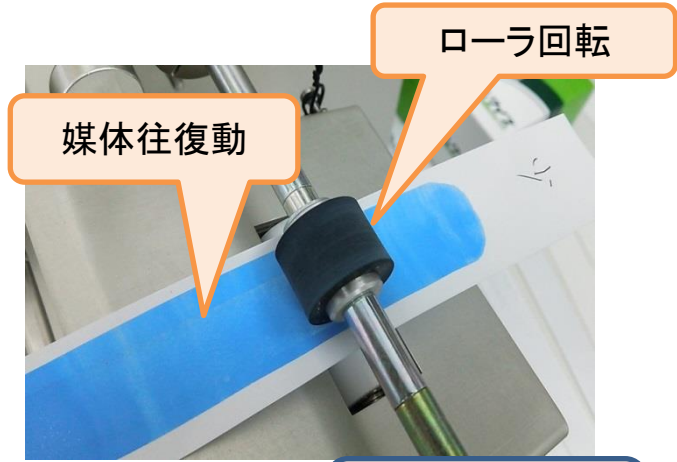
- ・すべり率測定(ローラ回転)
 - ・試料媒体にマークすることなく移動量を測定し、ローラ回転量との差からすべり率を計算します。
 - ・紙粉付着劣化はマイクロすべり状態で促進試験できます。
- ・摩擦係数測定(ローラ回転、ローラ固定)
 - ・測定系の慣性が小さいので実際の現象を把握できます
 - ・極低速から高速までの実機摩擦を再現します。
- ・摩耗テストも可能です。
- ・速度範囲が広いので、ゴム物性の把握・最適化が可能です。
- ・設定パラメタをタッチパネルから取説対話式で入力します。
- ・全自動でローラ押圧調整、負荷押圧調整します。
- ・設定内容、測定結果はPCでEXCEL表示します。
- ・本体とコントローラが別体なので、小型恒温槽に本体を入れて温湿度試験も可能です。



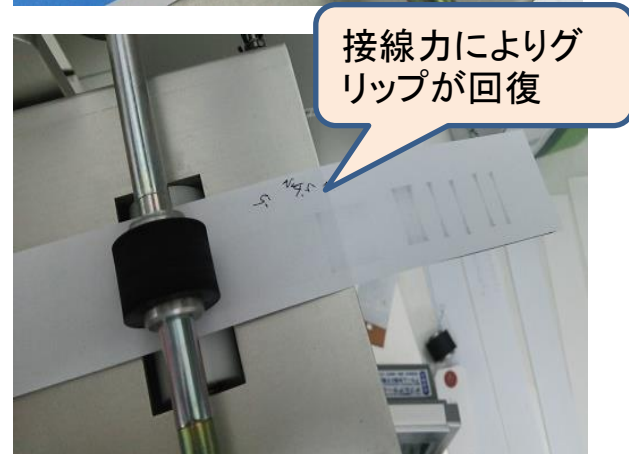
本機の機能を使った紙粉付着促進テストの例

摩耗試験モードを利用した 付着劣化促進試験

- ・ローラ回転と媒体往復を条件を変更しながら試験することができるので、様々な使用条件に適応できます。
- ・促進媒体を使用して1往復で長期の実機試験を代替できます。

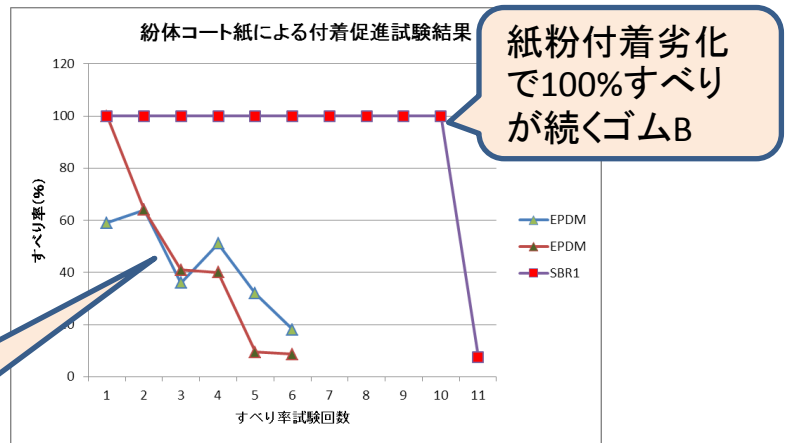


摩擦係数測定モードで、 グリップ回復性を可視化

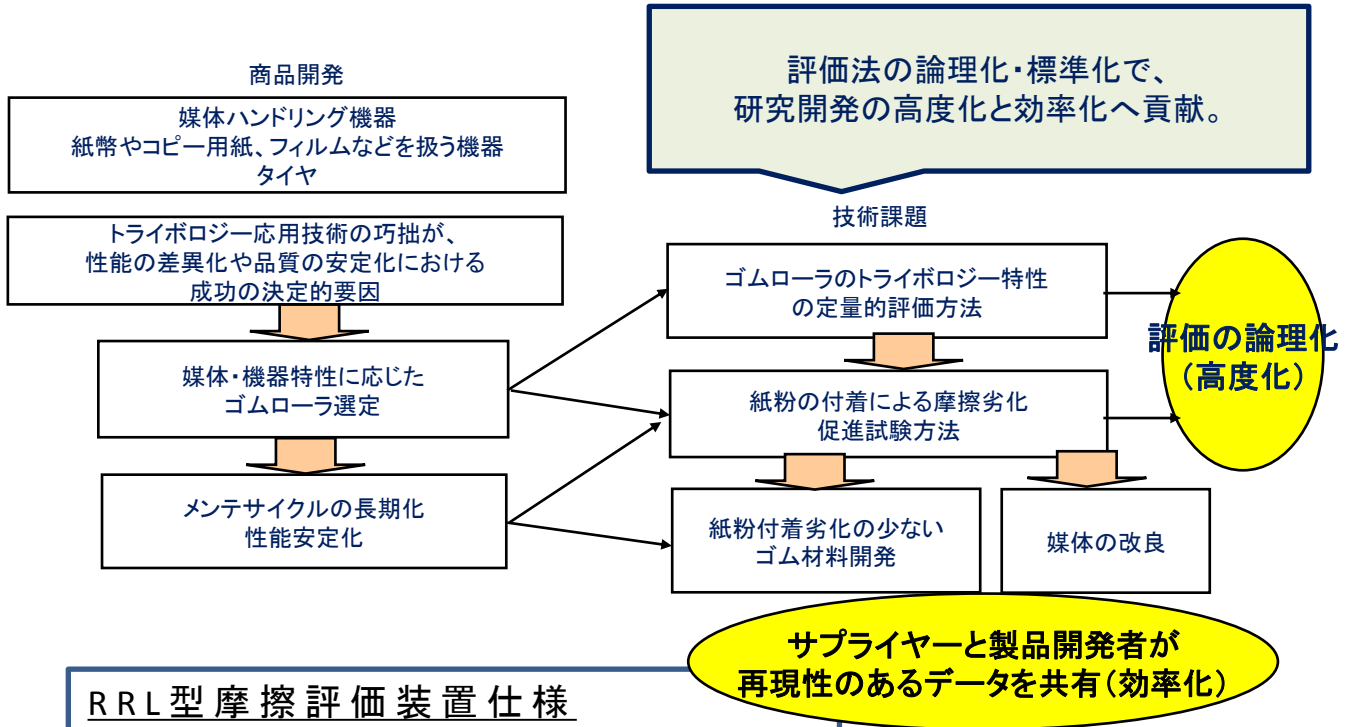


すべり率測定モードで

- ・紙粉付着劣化を定量化
- ・実機の負荷力で回復可能か検討できます。
- ・ピックアップローラ制御の最適化に直結します。



本装置のお役立ちポイント



RRL型摩擦評価装置仕様

- ・装着可能ローラサイズ: $\phi 40\text{mmMAX}$ X 幅 30mmMAX
- ・ローラ回転速度: Max 3000rpm
- ・媒体移動速度: Max 600mm/s
- ・移動量測定速度: Max 10000mm/s
- ・最大測定可能摩擦力: 2N
- ・本体サイズ WDH: $600\text{X}600\text{X}900\text{mm}$
- ・コントローラサイズ WDH: $600\text{X}700\text{X}770\text{mm}$
- ・電源: 100V

仕様は改良のためお断りなく改定される事が有りますので、ご利用の際にはご連絡ください。

開発製造販売

高周波粘弾性株式会社

HighFrequency ViscoElasticity Corporation

本社/横浜ラボ

〒224-0007 神奈川県横浜市都筑区荏田南3丁目1-21-102

<http://www.highfrequency-viscoelasticity.com/contact-us/>

info@highfrequency-viscoelasticity.com



2015.07.31